

Managerでの コーチング ツールキット

コーチング時の重要な会話を支援する柔軟なツールです。

eDrivingの主要部である、実証済みの閉ループ危険低減手法はリスクの高いドライバーを継続的に引率して指導します。eDrivingの主要なリサーチでは、多くの認知研究の結果が証明されました。つまり、トレーニングは、オンラインまたは直接に関わらず、ドライバーのリスクの高い行動に大きな変化をもたらすことができます。継続によって強化されるリスクの低い行動と危険管理目標は、ドライバーが新しい習慣を身に着けるために不可欠であり、仕事で運転するドライバーの命を守ります。



全体論的な統合アプローチ

eDrivingは、Virtual Risk Manager®またはMentorSMアプリからアクセスできる、独自のコーチングツールとテンプレートをマネージャーに提供し、ドライバーの事故、衝突事故、リスク評価、交通違反および他のテレマティクスデータが含まれるMentorのFICO®安全運転スコアを道路上の成績データと組み合わせ、最も危険度の高いドライバーを特定します。マネージャーとドライバーが、トリガーイベントやスコアの閾値に基づいてオンラインまたは対面で話し合えるよう、コーチングの招待コードが自動生成されます。

簡単に使えるコーチングテンプレート

OneToOne®

全ドライバーまたはリスクの高いドライバーが対象のOneToOne®セッションは、期待値を設定して運転を仕事とするドライバーの追突事故なし、怪我なし、交通違反ゼロのアプローチの採用に対する説明責任を強化するように設計されています。毎年実施するようになっており、雇用主の安全目標の強化を目指すとともに、ドライバーが常に安全であってほしいというマネージャーの願いをベースにしています。

衝突事故後コーチング

追突事故を起こしたドライバーを対象とした衝突事故後コーチングは、イベント報告後14日以内に使用します。何が起きたか、どうしてそうなったか、そして最も重要な点である、再発を防ぐには何を異なる方法で行えるかといった質問事項によって、マネージャーがディスカッションを進めやすくなります。マネージャーは、このプロセスを使ってさらに危険を低減できるようにeラーニングや他のトレーニングを勧めることもできます。マネージャーは自由回答形式の質問で会話を進め、「5つの理由」による原因分析アプローチを使ってドライバーが追突事故の根本原因を調査、理解できるよう誘導してください。

DriverINDEX®コーチ

3つ目の最も強力なツールDriverINDEX®コーチは、プライバシー規則が許す範囲で、ドライバーの道路上でのすべての成績データ記録を使って全体論的アプローチでディスカッションを誘導できるようにします。リスクレベルが低減するまで毎月15分未満のミーティングを繰り返し、5つの質問を使って、修正が必要な特定の「危険な」行動とドライバーが一日の終わりに安全に帰宅するためのマネージャーのサポート方法に焦点を当てます。

プロフェッショナルコーチング

チームメンバーのセールスやサービス、配達成績に対する的確で有益なフィードバックを提供できると自負しているマネージャーは、追突事故や怪我、交通違反に対しても同じようなフィードバックができるという自信はないかもしれません。ここでドライバーとマネージャーの両方を支援できるのが、eDrivingのプロフェッショナルコーチング (ProCOACH) です。eDriving ProCOACHとドライバーの間で行われるOneToOne®アクション後の学習セッションにより、ドライバーは過失の有無にかかわらず、自分の「運転計画」のどこに問題があったのかが理解できるようになります。ProCOACHおよびドライバーとマネージャーの共同作業を組み合わせることによって94%の問題を解決することこそが、ドライバーが事故、衝突事故、怪我、交通違反のすべてをゼロにするために必要なことではないでしょうか。



世界中の業界リーダーが迷わず選択。

25年の経験
120万人以上のアクティブな車両ドライバー
125か国

125を超える顧客&パートナーアワード
プライバシーを最優先とした、安全なデータ環境
大規模な検証研究